第6章

水に関する自発的な活動等

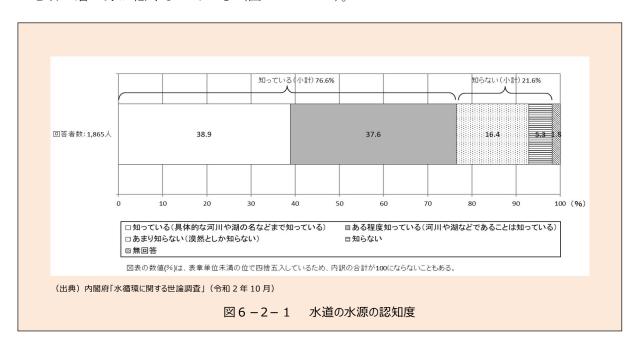
安全でおいしい水への要望【再掲】

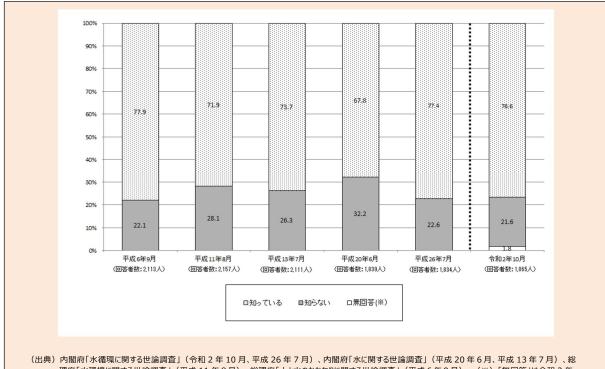
「p.58 参照」

水資源に関する意識

令和2年(2020年)に内閣府が実施した「水循環に関する世論調査」によると、水道の水 源の認知度を聞いた結果、約8割の人が「知っている」(「知っている(具体的な河川や湖の 名などまで知っている)」38.9%と「ある程度知っている(河川や湖などであることは知って いる)」37.6%との合計)と回答している(図6-2-1)。令和2年は「知っている」(「知っ ている(具体的な河川や湖の名などまで知っている)」と「ある程度知っている(河川や湖な どであることは知っている)との合計」が76.6%、「知らない」(「あまり知らない(漠然とし か知らない)」と「知らない」との合計)が 21.6%となっている(図6-2-2)。また、令 和2年の同調査を年齢別に見ると、50~59歳以上の年齢階級では4割以上の人が「知ってい る」と回答しているのに対し、18歳~29歳では「知っている」と回答した人は約1割強であ る (図6-2-3)。

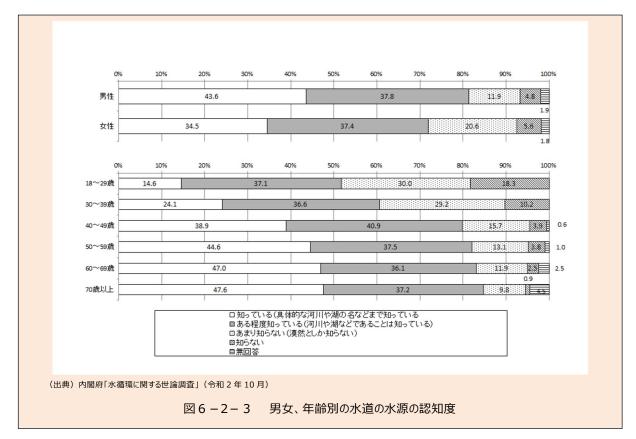
平成 26 年(2014年)に内閣府が実施した「水循環に関する世論調査」によると普段の生 活で節水しているかどうかを聞いた結果、「節水している」または「どちらかといえば節水し ている」と答えた人は80.5%である(図6-2-4、6-2-5)。「節水している」または 「どちらかといえば節水している」と答えた人を男女別にみると、男性が 78.8%、女性が 81.9%と女性の方が高く、年齢別にみると 70歳以上で 85.3%である一方、20~29歳では 71.0% と若い層の方が低くなっている(図6-2-6)。

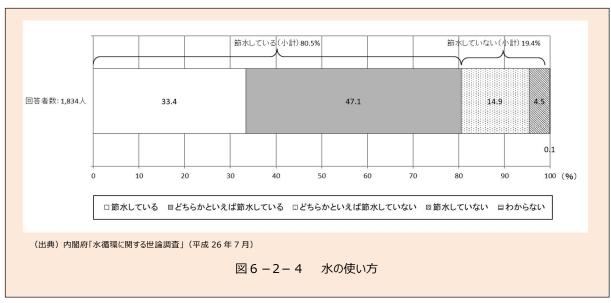


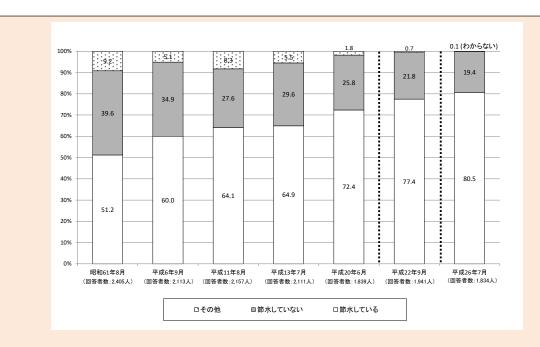


(出典) 内閣府「水循環に関する世論調査」(令和 2 年 10 月、平成 26 年 7 月)、内閣府「水に関する世論調査」(平成 20 年 6 月、平成 13 年 7 月)、総理府「水環境に関する世論調査」(平成 11 年 8 月)、総理府「人と水のかかわりに関する世論調査」(平成 6 年 9 月)、(※)「無回答」は令和 2 年のみの選択肢、平成 26 年 7 月調査までは、調査員による個別面接聴取法で実施しているため、令和 2 年 10 月調査との単純比較は行わない。

水道の水源の認知度の経年変化 図6-2-2





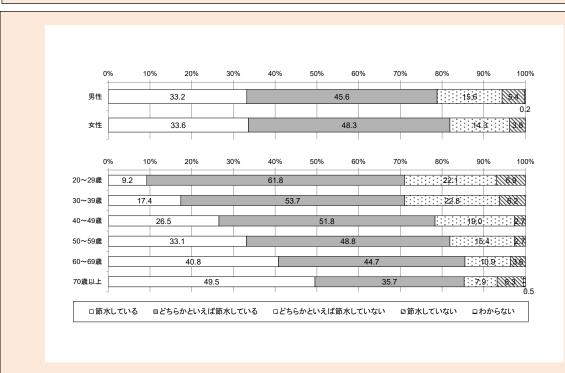


- (出典) 内閣府「水循環に関する世論調査」(平成 26 年 7 月)、内閣府「節水に関する特別世論調査」(平成 22 年 9 月)、内閣府「水に関する世論調査」(平成 20 年 6 月、平成 13 年 7 月)、総理府「水環境に関する世論調査」(平成 11 年 8 月)、総理府「人と水とのかかわりに関する世論調査」(平成 6 年 9 月)、総理府「水資源に関する世論調査」(昭和 61 年 8 月)
- (注) 図中の「節水していない」は、平成 26 年 7 月、平成 22 年 9 月では「節水していない」、平成 20 年 6 月、平成 13 年 7 月、平成 11 年 8 月、平成 6 年 9 月、昭和 61 年 8 月では「豊富に使っている」という選択肢。
- (注 2) 図中の「節水している」は、平成 26 年 7 月、平成 22 年 9 月の調査では、「節水している」は、「節水している」と「どちらかといえば節水している」の小計、「節水していない」は、「どちらかといえば節水していない」と「節水していない」の小計。 平成 20 年 6 月、平成 13 年 7 月、平成 11 年 8 月、平成 6 年 9 月、昭和 61 年 8 月では、「豊富に使っている」は、

「節水のことは考えず、豊富に使っている」と「節水は必要と思いながらも、豊富に使っている」の小計。

- 「節水している」は、「ある程度節水をしながら使っている(注 3)」と「まめに節水して使っている」の小計。 (注 3) 平成 11年8月までは、「多少節水をしながら使っている」という選択肢。
- (注 4) 凡例の「その他」は、全体から「節水している」、「節水していない」の合計を差し引いた残差。
- (注5) 平成20年6月までの調査と平成22年9月調査以降は、選択肢が異なるため、単純比較は行わない。

図6-2-5 節水意識の経年変化



(出典) 内閣府「水循環に関する世論調査」(平成 26 年 7 月)

図6-2-6 男女、年齢別の節水意識